

図書館だより

目次

「世界文学」という読書体験	——白杵 陽	1
日本女子大学叢書の紹介		
山下絢著『学校選択制の政策評価—教育における選択と競争の魅惑—』	——山下 絢	2
著作紹介 木村覚著『笑いの哲学』	——木村 覚	3
ケルムスコット・プレスの16折判	——川端 康雄	4
上代タノ平和文庫購入資料紹介		6
JWU LibrariE 特集：ラーニング・サポーター推し本		7
2021年度夏期スクーリング開館について		
	——南木 香織	8
図書館からのお知らせ		8



上代タノ平和文庫 記念のプレート

「世界文学」という読書体験

白杵 陽

小学生の時に「マイム・マイム」というフォークダンスを踊った経験のある方も多からう。このフォークダンスはアメリカ占領期の日本に占領軍のユダヤ人将校が持ち込んだといわれる。「マイム」はヘブライ語で「水」という意味である。ヘブライ語の歌詞自体は「あなたがたは喜びをもって、救いの井戸から水をくむ」（イザヤ書第12章第3節）に由来するという。

同じセム語系の言語であるアラビア語では「水」は「マー」である。ヘブライ語の語尾形「アイム」は「二つ」を意味する「双数形」という、セム語系言語以外ではあまり見かけない形が使われている。聖地エルサレムもヘブライ語では「エルシャライム」という同じ形の語尾である。

セム語を持ち出したのは、日本ではアラビア語文学あるいは現代ヘブライ語文学がほとんど紹介されておらず、さらにいわゆる「第三世界」（あるいはAALAという、現在ではほとんど使われない「アジア・アフリカ・ラテンアメリカ」の略語）の文学の紹介が日本では立ち遅れていると感じるからである。このところスペイン語やポルトガル語のラテンアメリカ文学はかなり紹介されるようになったが、アジア地域では中国・台湾・韓国といった東アジアに加えて、東南アジアや南アジアの文学の紹介もかなり進展したようだ。アラビア語、ペルシア語、トルコ語、クルド語、あるいはヘブライ語などの中東の諸言語はやはり特殊だとみなされるのか、翻訳にも限界があるのだろう。もっとも、かつて植民地であったところはそれぞれの宗主国の言語で書かれることも多いが。

「世界文学」という用語を他の言語でどのくらい使用されているのかは詳らかではないが、日本では「世界文学」という表現は人口に膾炙しているといえるだろう。かつては「世界文学全集」と銘打った出版物がかなりあったようだが、最近はあまり見かけないようだ。この下位カテゴリーのそれぞれの言語、例えばフランス語だとか、ロシア語だとか、ドイツ語だとか、イタリア語だとか、言語と国名とが微妙に交差しながらカテゴリー化されているようだ。

日本ほど「世界文学」が紹介されている国はほかにないだろう。かつて中東に滞在していた時に友人たちと話して気がついたのが、かれらは「世界文学」を自分たちの母語ではない言語で読んでいるという事実であった。当時、中東ではまだ翻訳文学は開発途上だった。その意味で日本の翻訳状況は非常に特殊であるが、われわれはそのような文化的状況に恩恵を受けているということであり、翻訳大国・日本の現状に感謝しなければならないということなのかもしれない。

(図書館長・史学科教授)

山下絢著

『学校選択制の政策評価—教育における選択と競争の魅惑—』
(日本女子大学叢書23)

山下 絢



「評価が混在する教育政策の議論に、エビデンスを用いて対峙できないか。」これが、教育政策の実証的な教育政策研究を行っている私の一貫した問題意識である。本書の分析対象である学校選択制は、1990年代後半から本格化した規制緩和を背景として複数の自治体で導入されたが、導入に際しては評価が混在している。義務教育段階において、入学する学校は居住地に基づいて決定されることが一般的であるが、学校選択制が実施されている場合には、保護者（児童生徒）が入学する学校を自由に選ぶことが可能である。制約されていた学校の選択が可能になることは、学校が選択可能になることを望んでいた保護者にとっては魅力的な政策であろう。また、学校が選択されることによって学校間競争が促進され、学校改善につながるという期待を抱く政策関係者にとっても学校選択制は魅力的な政策であろう。その一方で、学校選

択制は教育における階層化の問題をより一層深刻化させ、教育環境を悪化させるのではないかといった弊害も議論されてきた。このように学校選択制は、一定の効果が期待できる一方で悪影響も懸念される二面性があることを踏まえて「諸刃の剣」と称されることがあり、この点を踏まえて本書の副題では「魅力」ではなく「魅惑」と付している。

本書は、エビデンスベースな教育の政策評価研究に資することを志向し、日本における義務教育段階の学校選択制の実態と課題を、児童生徒の視点と教師の視点の両方から実証的に明らかにしたものである。本書は、ディベートのように、学校選択制を「賛成」あるいは「反対」のどちらかの立場で捉えて、その立場を正当化するための主張や論拠を提示するものではない。本書の主眼は、学校選択制をめぐる先行研究において検討されてきた理論や概念を手がかりとして、複数の調査データに基づいた計量分析を行い、学校選択制に関する実証的研究の知見を体系的に提示することにある。いわば本書は、諸刃の剣にエビデンスで対峙することを試みたものである。

ここで、本書で得られた知見の一部を紹介したい。その一つは、国内外の学校選択制の研究において理論的に検討されてきた「クリームスキミング」（良い児童生徒のすくい取り）の検討である。学校選択制をめぐる調査研究は、学校選択制の導入によって一部の学校に入学者が集中する一方で、減少する入学者数の変動の実態が取り上げられることが多い。本書では、そのような量的な側面の入学者数の変動だけではなく、質的な側面の変化としての児童生徒の集団構成上の特性に着目した議論を展開し、いわゆる人気のある学校に、教育に熱心な家庭の児童が多く集まっていることを示し、クリームスキミングが生じていることを示唆した。本書で検討した概念や理論、そして得られた実証的な知見が、学校選択制の是非を問うことのみならず、教育格差の是正に向けた様々な教育政策の議論の場において用いられ、発展的な政策議論に寄与できればと思う。

最後になるが、本書は幸運なことに、日本経済新聞で取り上げていただいた（本田由紀「＜半歩遅れの読書術＞学校選択制で教育はよくなるか？：思い込みをデータで問い返す」2021年6月12日）。また日本教育行政学会第56回大会（2021年10月9日）において、日本教育行政学会賞を授与いただいた。これらは、2020年度日本女子大学刊行助成を受け、本書が刊行できたことによる。貴重な時間を割いて審査に関わってくださった査読者の先生方に改めて感謝申し上げます。

(教育学科准教授)

著作紹介

木村覚著『笑いの哲学』

木村 覚

本書の書影をご覧ください。イラストレーターの進士遥さんが、舞台をとり囲む多様な人物を描いてくれました。細かいけれど、見えますか。笑っている人が多いですが、カンカンになって怒っている人もいれば、背を向けてしょんぼり泣いている人もいます。なかには「PC」（ポリティカルコレクトネス）の看板掲げる集団も見えますね。隣の人と夢中になって議論している人もいます。進士さんにこのイラストを依頼するとき、笑いの対象を前に多様な意見の人たちがひしめきあっている図を描いて欲しいと注文しました。本書がときほぐそうとしたのは、笑いをめぐって異なる意見や感情が交差し合う複雑な状況だったからです。

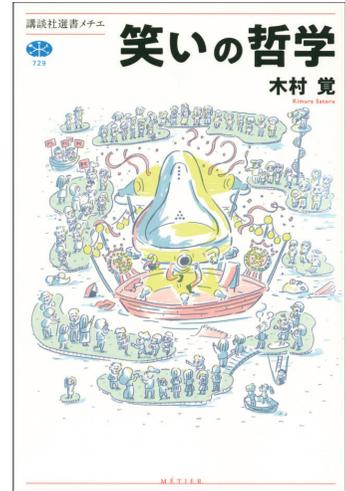
一番難航したのは、舞台上に誰を登場させるかでした。笑いの標的として誰を置くのがふさわしいか、この点を考えて苦戦したというわけです。「女性」を笑う？「デブ」を笑う？「子供」を笑う？本書はまさにそうした「弱者」を笑う状況について熟考していますが、それを読む前にそうした表紙を見たら、多くの人がその点を問題視するでしょう。ならば「男性」は？確かに一度はモジモジしているダヴィデ像のようなキャラクターを描いてもらいました。けれども、そこに不要な深読みが生まれるのも望ましいとは思えず、最終的に「便器」（デュシャンの『泉』が背景にあります）に落ち着きました。これは便器という存在の寛大さ、強さのおかげです。人間の汚物を吸い込みながら、不満も泣き言も言わず、平然とすましているなんて、最強です。人間の鑑です。

本書は「私たちは笑って良いのか、それとも、笑ってはいけないのか」という問いから始まります。「コンプライアンス」とか「PC」とか、私たちは他者への（とくに見た目の）評価をめぐって、他者がその評価をどう受けとるのかについて、無邪気であることは難しくなりました。ステレオタイプの枠を当てがうと、他者の理解は容易になりますが、同時に偏見に汚染される可能性が高まります。そうした偏見から人々を守る「安全な空間」を作り出そうという機運は、悪くありません。ただし、その勢いに身を任せていると、笑いは有害なものとなされ、「悪者」化し、果ては排除の対象になってしまいます。

この夏、BPO 青少年委員会は「痛みを伴うことを笑いの対象とするバラエティー」を審議入りすると決めました。日本テレビが年末恒例の『笑ってはいけない』という番組を中止すると発表しましたが、この件との関連が噂されています。お笑い番組を見ていると「このご時世」という言葉がよく出てきます。世の中に漂う「正しさ」に芸人たちは非常に敏感になっており、それを踏み越えることをとて躊躇しています。確かに、その姿勢は正しいようにも思いますが、一方で「正しさ」に縛られて、人間が持ち合わせている心のダイナミズムを十分に発揮できずにいるようにも思うのです。

さて、本書は三章から構成されています。第一章は「優越の笑い」、第二章は「不一致の笑い」、第三章は「ユーモアの笑い」を扱っています。各章で、異なる笑いのあり方を追求していると同時に、章が改まるごとに人間の質が高まっていくという体裁をとっています。「人間の質」と今書きましたが、それは社会が私たちに押し付けてくる「掟」への従属度に左右されます。何を優位に、何を劣位に置くかの判断は、社会の価値観に支配されているものです。「掟」とはこの社会の価値観のことであり、その束縛から自由でないと「ユーモアの笑い」は笑えません。笑いを哲学すると、社会と個人が見えてきます。そして、どのような社会を生きたいか、どのような個人でありたいかが、自ずと問われてきます。

(文化学科教授)



ケルムスコット・プレスの16折判

川端 康雄

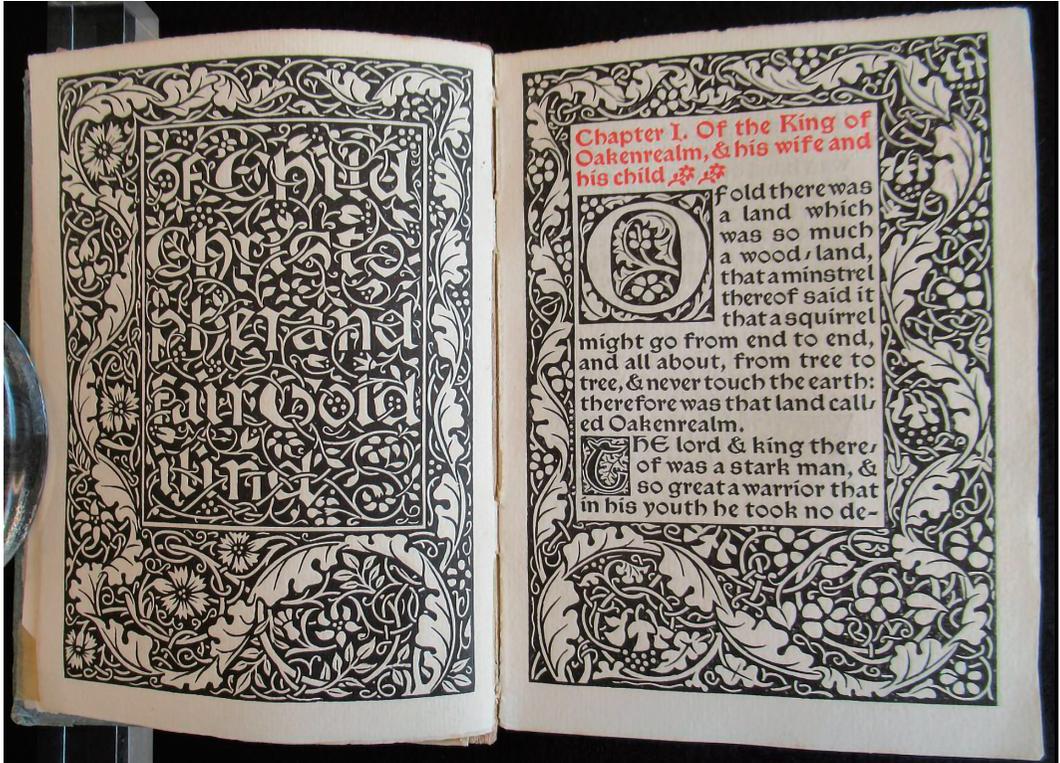
本誌前号の拙稿（「アーツ・アンド・クラフツ展とケルムスコット・プレス版『ゴシック建築』」）で、ケルムスコット・プレス（以下、KPとも略記）の本が最大の2折判から最小の16折判まで7種類のサイズがあることを指摘した。その16折本のひとつとして『ゴシック建築』があることを見たのだが、本稿では16折本で刷られた他の5点の書物を紹介したい。以下に書目をリストアップする。書名和訳、原題、著者（訳者）名、奥付（コロフォン）日付、KP書目の通し番号の順で示す。

- ・『フローラス王と麗しのジャンヌ』（*The Tale of King Florus and the Fair Jehane*）モリス訳、1893年12月16日、KP21
- ・『アミとアミールの友情』（*Of the Friendship of Amis and Amile*）モリス訳、1894年3月13日、KP23
- ・『クースタンス王と異国の物語』（*The Tale of the King Coustans and of Over Sea*）モリス訳、1894年8月30日、KP26
- ・『チャイルド・クリストファーと麗しのゴルディリンド』（*Child Christopher and Goldilind the Fair*）モリス著、全2巻、1895年7月25日、KP35
- ・『手と魂』（*Hand and Soul*）ダンテゲイブリエル・ロセッティ著、1895年10月24日、KP36

以上の5点である。活字体は『手と魂』だけがゴールデン・タイプで、ほかの4点はチャーサー・タイプ、いずれも木口木版の題扉が用いられている。このうち初めの3点は中世フランス散文ロマンスをモリスが訳出したものである。その底本にしたのは1856年にパリで刊行された『13世紀のフランスの散文物語』で、これは5篇の物語を含み、「オーカッサンとニコレット」を除く4篇が訳されている（『クースタンス王と異国の物語』は「クースタンス王の物語」と「異国の物語」——仏語版原典では「ポンチュール伯（La Comtesse de Ponthieu）——の2篇を含む）。この仏語版じたいが16折判の瀟洒な造りの印刷本であるので、このサイズを踏襲したということなのかもしれない。

中世ロマンスはモリスが愛読してやまなかった文学ジャンルであり、また作家モリスにとっては創作の基本とする物語形式で、『地上の楽園』ほかの韻文ロマンス、および『世界のかなたの森』や『世界のはての泉』といった後期散文ロマンスの源流となるものだった。じっさい、「クースタンス王の物語」は『地上の楽園』の「王となるべく生まれた男」の種本になった物語である。これらを一卷に収めた普及版が『古いフランスのロマンス集』（*Old French Romances*）と題して1896年にジョージ・アレン社から刊行されている。その序文で民俗学者のジョーゼフ・ジェイコブズはこれらの物語を『地上の楽園』という恰好の名で私たちみな知っているあの立派な建造物の、一種の離れの館に相当する」と評している。文学研究の観点からモリスのロマンスの特質を考察するなら、文学的、歴史的価値が高いとモリスがみなしたこれらの作品を参照することが必須であろう。

モリス著の『チャイルド・クリストファーと麗しのゴルディリンド』についても、種本があって、1290年頃の英語韻文ロマンス『デン人（ハヴェロック）』（*Havelock the Dane*）を散文に翻案した作品である（当初韻文での翻案を試みたが散文に変えた）。本作りの作業にかかると、小型の16折判で1冊に収めるのには長すぎるのがわかり、2巻本とした（全512頁）。『ブックセリング』誌の1895年クリスマス号に掲載されたインタビュー記事のなかで記者から「小型本の出来映えはどうだと思いますか」と問われたモリスは、「申し分ありません」と答えて、『チャイルド・クリストファー』の本をやさしく撫でながらこう続けた。「このような本が一冊七シリング六ペンスで買えることが分かれば、買わずにはいられないでしょう。私は自分の本を愛しており、またそれを作る



ウィリアム・モリス『チャイルド・クリストファーと麗しのゴルディリンド』の題扉（ケルムスコット・プレス、1894年）（所蔵：日本女子大学図書館）

ことを愛しています。そしてこれらの小型16折判はわが印刷所から出したうちでもまさに白眉の魅力的な本だと思います」（モリス『理想の書物』川端康雄訳、ちくま学芸文庫、2006年、253頁）。

ロセッティ著の『手と魂』は、この画家・詩人がラファエル前派兄弟団の活動に当たっていた1849年に同派の機関誌『ジャーム』のために書いた散文物語である。ロセッティは青年期のモリスが詩人・デザイナーとしての道に進むにあたって決定的な影響を与えたのみならず、モリス・マーシャル・フォークナー商会の発足時にはパートナーであり、また一時期ケルムスコット・マナーでモリス一家との奇妙な同居生活を送るなど、私生活の面でも複雑な関わりがあった。これをKPで復刻したときにはロセッティは没後13年を経ていた。モリスにとって忘れがたい書としてKPのラインナップに入れたわけである。なお、ロセッティの詩作品については、KPから『バラッドと物語詩』（1893年、KP20）と『詩とバラッド』（1894年、KP20a）を8折判の揃いで刊行している。

前に述べたように、ケルムスコット・プレスでは大型2折判の『チョーサー作品集』が「世界の三大美書」の一冊と目され、ひときわ有名になっているため、多くの読者がこの本や、あるいは同型の『黄金伝説』や『トロイ物語集成』でもってKP刊本をイメージしてきたが、KPではさまざまなヴァリエーションと実験がなされていたということを忘れてはならない。ウィリアム・S・ピーターソンは、以上見た小型本にふれて、これら16折本は「ケルムスコット・プレスからたて続けに出された大きく重たい2折判という固定概念を覆す、きわめて優美な小型本である」（『ケルムスコット・プレス』湊典子訳、平凡社、1994年、146頁）と評価している。掌に軽く乗り、大型本とはまた趣の異なる読書が経験できるこれらの小型本は、珠玉の書物群とすることができるだろう。

（英文学科教授）

2019～2020年度上代タノ平和文庫購入資料紹介

2019～2020年度、「上代タノ平和文庫」の蔵書として購入された図書の一覧をお知らせする。

「上代タノ平和文庫」は、旧図書館が開館した当時第6代学長であった上代先生が寄贈された846冊を基に1971年に創設され、ご遺志を継いで現在も継続収集が続けられている。個人の名前を冠した文庫で、設置後50年間近く、継続的に収集が続けられる例は珍しいと思われる。新しくなった図書館では、最上階である4階に記念のプレートとともに移設されている。

2019年度

請求記号	資料情報
1 160.4 Mas	宗教はなぜ人を殺すのか：平和・救済・慈悲・戦争の原理／正木晃著。一さくら舎，2018。
2 210.6 Yam	天皇と戦争責任／山田朗著。一新日本出版社，2019。一（日本の戦争；3）。
3 219.9072 Mat	沖縄と核＝Okinawa & Nukes／松岡哲平著。一新潮社，2019。
4 289.1 Ich	市川房枝：女性の一票で政治を変える／伊藤康子著。一ドメス出版，2019。
5 289.3 Thu	光に向かって進んでいけ：核なき世界を追い求めて／サロー・節子，金崎由美著。一岩波書店，2019。
6 313.7 Tan	なぜ民主化が暴力を生むのか：紛争後の平和の条件／田中（坂部）有佳子著。一勁草書房，2019。
7 319.8 Ekk	越境する平和学：アジアにおける共生と和解／金敬熙編著。一法律文化社，2019。
8 319.8 Fal	人道的介入と合法的闘い：21世紀の平和と正義を求めて／リチャード・フォーク著；川崎晋共訳。一東信堂，2020。
9 319.8 Gal	ガルトゥング平和学の基礎／ヨハン・ガルトゥング著；藤田明史編訳。一法律文化社，2019。
10 319.8 Gen	原爆をまなざす人びと：広島平和記念公園八月六日のビジュアル・エスノグラフィ／松尾浩一郎，根本雅也，小倉康嗣編；清水もも子【ほか】著。一新曜社，2018。
11 319.8 Gun	軍縮・不拡散の諸相：日本軍縮学会設立10周年記念／日本軍縮学会編。一信山社，2019。
12 319.8 Iwa	戦争・核に抗った忘れえぬ人たち／岩垂弘著。一同時代社，2018。
13 319.8 Kak	核軍縮平和：イアブック：市民と自治体のために／ピースデポ・イアブック刊行委員会企画・執筆；2018。一ピースデポ，2018。
14 319.8 Kod	戦争裁判と平和憲法：戦争をしない／させないために／児玉勇二著。一明石書店，2019。
15 319.8 Oku	「核の時代」と憲法9条／大久保賢一著。一日本評論社サービスセンター，2019。
16 319.8 Sad	SDGs時代の平和学／佐渡友哲著。一法律文化社，2019。
17 319.8 Shu	「周縁」からの平和学：アジアを見る新たな視座／佐藤幸男，森川裕二，中山賢司編。一昭和田，2019。
18 319.8 Tom	人間の尊厳を築く反核運動／雷田宏治著。一学習の友社，2019。
19 319.8 Uga	世界標準の戦争と平和：初心者のための国際安全保障入門／烏賀陽弘道著。一扶桑社，2019。
20 319.8 Yam	過剰な理想：国民を戦争に駆り立てるもの／山内廣隆著。一晃洋書房，2019。
21 319.8 Yon	原爆の世紀を生きて：爆心地（グランド・ゼロ）からの出発／米澤鐵志著。一アジェンダ・プロジェクト，2018。
22 319 Koh	東大白熱ゼミ：国際政治の授業／小原雅博【著】。一ティスカヴァー・トゥエンティワン，2019。
23 323.142 Got	人権としての平和：平和的生存権の思想研究／後藤光男著。一成文堂，2019。
24 329.04 Ada	世界万国の平和を期して：安達峰一郎著／安達峰一郎著；柳原正治編。一東京大学出版会，2019。
25 329.34 Nog	ユネスコと歩いた50年：平和の文化を求めて／野口昇著。一シングルカット，2019。
26 367.2 Ito	国際女性デーは大河のように／伊藤セツ著。一増補版。一御茶の水書房，2019。
27 369.37 Mat	在米被爆者／松前陽子著。一潮出版社，2019。
28 369.37 Ois	長崎の痕／大石芳野著。一藤原書店，2019。
29 369.37 Yug	平和の栖（すまか）：広島から続く道の先に／弓野匡純著。一集英社クリエイティブ，2019。
30 391.1 Iho	未来の戦死に向き合うためのノート／井上義和著。一創元社，2019。
31 393.21 Voi	Voice：平和をつなぐ女たちの証言／安保法制違憲訴訟・女の会編。一生活思想社，2019。
32 O.S. 726.6 Bin	ドームがたり／アーサー・ビナード作；スズキコジ画。一玉川大学出版部，2017。一（未来への記憶）。

2020年度

1 198.22 Fra	法王フランシスコの「核なき世界」：記者の心に刺さったメッセージ／津村一史著。一dZERO，2020。
2 302.2484 Tan	平和構築を支援する：ミンダナオ紛争と平和への道＝Assisting peacebuilding: Mindanao conflict and road to peace／谷口美代子著。一名古屋大学出版会，2020。
3 316.834 Ito	異郷と故郷：近代ドイツとルール・ポーランド人／伊藤定良著。一改訂新版。一有志舎，2020。
4 319.8 Has	平和構築の志：東ティモールでの平和構築活動から学んだ教訓／長谷川祐弘著。一創成社，2020。
5 319.8 Hei	平和学から世界を見る／多賀秀敏編著。一成文堂，2020。
6 319.8 Ito	平和学のいま：地球・自分・未来をつなぐ見取図／平井朗，横山正樹，小山英之編。一法律文化社，2020。
7 319.8 Kak	核軍縮平和：イアブック：市民と自治体のために／ピースデポ・イアブック刊行委員会企画・執筆；2005—2019。一ピースデポ，2005。
8 319.8 Koy	我が家に来た脱走兵：1968年のある日から／小山帥人著。一東方出版，2020。
9 319.8 Sen	戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー／日本平和学会編。一法律文化社，2020。
10 319.8 Tag 1	平和を理解するための思考のドリル／多賀秀敏著。一勁草書房，2020。一（平和学入門；1）。
11 319.8 Tag 2	戦争を理解するための思考のドリル／多賀秀敏著。一勁草書房，2020。一（平和学入門；2）。
12 319.8 Tod	平和学と歴史学：アナキズムの可能性／戸田三三冬著。一三元社，2020。
13 319.8 Tsu	「核廃絶」をどう実現するか：被爆地・長崎から日本と世界へ送るメッセージ／土山秀夫著。一論創社，2020。
14 319.8 Yam	晴れた日に…雨の日に…：広島・長崎・第五福竜丸とともに／山村茂雄著。一現代企画室，2020。
15 323.142 Kas	憲法九条と幣原喜重郎：日本国憲法の原点の解明／笠原十九司著。一第2刷。一大月書店，2020。
16 329.5 Kok	国際平和活動の理論と実践：南スーダンにおける実践／井上美佳【ほか】編著。一法律文化社，2020。
17 392.53 Eli	世界滅亡マシン：核戦争計画者の告白／ダニエル・エルズバーク【著】；宮前ゆかり，荒井雅子訳。一岩波書店，2020。

「JWU LibrariE」特集：「ラーニング・サポーター押し本」

電子図書館サービス「JWU LibrariE（ライブラリエ）」では、通常図書館では購入しない軽読書も提供しています。2021年度は、図書館「ラーニング・コモンズさくら」にご勤務の「ラーニング・サポーター」のみなさんに選書していただきましたので、選書の感想や、押し本の紹介を寄せていただきました。

「JWU LibrariE 選書の経験をして」

ラーニング・サポーターとして今回初めて選書作業を行いました。図書館や本屋などで私的な目的で図書を選ぶということはよくありますが、学校図書の選書は初めてであり、さらにインターネット上での選書というものは初めての経験でした。私が今回選書したのは自分の専攻である日本史に関係する図書が多いです。その中でも紹介したいのはくずし字に関する図書です。『妖怪絵草紙』を題材としてくずし字を読んでみるという図書になります。史学科の特に日本史を専攻しているとくずし字を読むことは必須であると思います。しかし、くずし字に初めて触れるということが大半であり、とっつきにくいと思うことがあるのではないのでしょうか。本図書はまず初めにひらがなを紹介し、『妖怪絵草紙』を読むという内容になります。妖怪を短い文で紹介している史料であるため、比較的読みやすいと思います。ぜひご一読下さい。

今回は1冊の図書のみの紹介でしたが、多種多様な図書を閲覧することができるため、皆様の「JWU LibrariE」のご利用をお待ちしております。

（文学研究科史学専攻 石塚菜々美）

「選書によせて」

学生さんに興味を持ってもらえる本を選ぶのはとても難しい作業でした。今回選んだ本は、以前興味深い史料に関する知識を得ることができた本です。

そうした理由で選んだ本は、ヴェルナー・ゾンバルト著、金森誠也訳、『恋愛と贅沢と資本主義』です。著者のゾンバルトはドイツの経済学者かつ社会学者であり、反ユダヤ主義を唱えました。彼の他の作品は『ユダヤ人と経済生活』（1994）などがあげられます。

私がこの本をお勧めする理由は大きくわけて2つあります。

1つはこの書籍には細かく注がふられているので、他の参考資料の情報を入手しやすい点です。注の中には外国の貴重な史料なども含まれているのでぜひ目を通してみてください。

2つめは輸入品や帳簿などの物の値段に関する記述が多く当時の人々の暮らしや経済の状況を伺うことができる点です。

人々の暮らしや経済史に興味がある方、外国語の文献や史料の情報を入手したい方にお勧めしたいです。

（人間生活研究科生活環境学専攻 木下ミルテ）

「SNS から生まれた“より豊かな学生生活”を送るための一冊」

自身の学部時代を振り返ると、学生生活では様々な人との交流を通して自身の「価値観」や「生き方」について考え始め、他人からの評価を気にするのではなく「自分はどうしたいのか」といった「自分軸」を確立することができた4年間であったと感じる。今の社会情勢では、他者との直接の交流は難しい部分もあるが、自分と向き合える時間が増えた今だからこそ、紹介したい本がある。

私はSNSを活用する中で、ある日インスタグラマーmiiさんの投稿に出会った。彼女は私と同じ世代で、主に自身の貯金の方法について紹介しているのだが、miiさんが楽しく貯金できているポイントは「自分軸」だという。著書『20代からはじめる お金が貯まる暮らしかた』には、彼女のこれまでの人生と「自分軸」がある今の生き方についてまとめてあり、ここには、私たちが生活する上で大切な「お金の使い方」と「自分軸」について考えるきっかけが沢山ある。

カラフルで読みやすく、「お金」だけでなく今後の暮らしのヒントが詰まった1冊なので、ぜひ学生のうちに読んで欲しい。

（理学研究科数理・物性構造科学専攻 小杉千春）

2021年度夏期スクーリング開館について

2021年度は昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症が猛威を奮い、図書館は本学の学生・

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	2021	2020	2019
開館日数	24	15	21
入館者数	1,663	528	2,938
1日平均	69.3	35.2	139.9
最高	95	55	187
最低	35	21	107
受講者数	785	676	717
登録者数	79	0	71
1日平均	3.3	0	3.4
更新者数	27	8	133
来館率	13.5	1.2	28.5
貸出冊数(通信生)	210	78	599
1日平均	8.8	5.2	28.6
最高	31	23	63
最低	0	0	10
内郵送貸出冊数	0	0	
1日平均	0	0	
最高	0	0	
最低	0	0	
貸出日数	24	15	21
複写枚数	1,724	1,918	6,239
1日平均	71.9	127.9	297.1
一般学生・教職員 その他の貸出	1,130	492	951
1日平均	47.1	32.8	45.3
内郵送貸出冊数	97	39	
1日平均	4.1	2.6	

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	2021(24)	2020(15)	2019(21)
一般学生・教職員	40	21	24
スクーリング生・ その他	4	2	40
合計	44	23	64
1日平均	1.9	1.6	3.1

教職員対象の限定開館を続けている。夏期スクーリングも緊急事態宣言下で実施されることになり、遠隔授業と対面授業のハイブリット型の夏期スクーリングとなった。夏期スクーリング開館は、8月2日(月)～28日(土)の24日間、開館時間は平日8:45～20:00、土8:45～18:00であった。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う図書館の対応として、三密(密閉・密集・密室)を避けるため、館内閲覧席は、4人掛け以上の閲覧机1台につき対角線上に2名以上着席を不可、館内のグループ研究室、視聴覚・対面朗読室は利用不可としている。また、限定開館中は、一般図書の予約等の保留期限を通常3開館日から7開館日に延長としている。ただし、通信図書の保留期限については、夏期スクーリング開館中は、例年通り1開館日とした。

入館者数は、遠隔授業と対面授業のハイブリット型の夏期スクーリングとしては、一定の利用があった。夏期スクーリング生の参考係利用者は、来校しての授業が少なかったため、ここ2年は減少した。以前の賑わいとは比べるべくもない状態ではあるが、

JWUラーニング・commonsさくらで遠隔授業を受ける通信生の姿もあり、夏期スクーリングの新しい形を垣間見ることとなった。

(館員・閲覧・西生田保存書庫係 南木香織)

図書館からのお知らせ

○学生・教員のwebからの購入申し込みを開始しました。図書館に所蔵がなく、学習や研究(教員は授業に関連した内容で学生用として推薦する)目的であれば、図書の購入を受け付けます。OPAC画面左側の「学生購入希望・教員推薦図書」よりMyJWU-LISと同様の方法でログインし、お申し込みください。

○右の写真は10月8日朝の書架の様子です。前夜の震度4の地震によるものです。上の階ほど本の落下や乱れが激しい状態でした。地震の時でも図書館の建物は耐震性で安全ですが、本は落下しますので書架の間からはすぐに出て身の安全を図ってください。



地震翌朝の書架(4階)

編集後記 図書館入口前の桜にちらほら花がついている。季節はずれではなく十月桜という品種らしい。十月のみならず一月末までちらほらとかわいらしい花を咲かせてくれるそうである。寒さの中でけなげに咲く姿にこころ温まり励まされるもする。(飯山)